

平成21年度外部研究評価委員会評価結果

生物資源研究部 細胞資源研究室

評価項目・判定基準		委員の評点		平均	
1. 生物資源業務に係る業績	50:極めて優れている。	40	45	40.00	
	40:優れている。	40	45		
	30:概ね妥当である。	35	40		
	20:劣っている。	40	40		
	10:極めて劣っている。	35	35		
2. 生物資源研究に係る業績	①進捗度(成果) -中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、研究の進捗度は十分か。十分な成果を上げているか。	5:極めて良好である。	4	4	3.71
		4:十分に良好である。	4	3	
		3:概ね良好である。	3	3	
		2:やや不十分であり、努力を要する。	4	4	
		1:極めて不十分である。	4	4	
②研究の学術的意義 -研究の学術的意義はどの程度あるか。	5:非常にある。	4	4	3.71	
	4:かなりある。	4	4		
	3:ある程度ある。	3	3		
	2:あまりない。	4	4		
	1:ほとんどない。	3	3		
③研究の社会的意義 -研究の社会的意義はどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5:非常にある。	4	5	4.00	
	4:かなりある。	4	4		
	3:ある程度ある。	3	3		
	2:あまりない。	4	4		
	1:ほとんどない。	4	4		
④研究目的達成の可能性 -研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か。	5:非常に高い。	4	5	4.00	
	4:高い。	4	4		
	3:平均的である。	3	3		
	2:低い。	4	4		
	1:ほとんどない。	4	4		
⑤成果の普及 -学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5:積極的に取り組んでいる。	3	4	3.71	
	4:十分な取り組みが見られる。	5	3		
	3:概ね妥当である。	3	3		
	2:やや不十分であり、努力を要する。	4	4		
	1:極めて不十分である。	4	4		
総合評価(100点満点) (【1. 生物資源業務に係る業績の評点】と 【2. 生物資源研究に係る業績(①~⑤)の評点】×2)の合計)				78.29	

生物資源部門 総合評価分布(平均:73.40 標準偏差:13.01)

	総合評価(100点満点)				
	50.0~59.9点	60.0~69.9点	70.0~79.9点	80.0~89.9点	90.0~100点
研究室・センター数	1	1	1	2	0

(参考)

生物資源部門 各評価項目の評点分布

	評点					平均	標準偏差
	10~19点 1点	20~29点 2点	30~39点 3点	40~49点 4点	50点 5点		
事業評価	0	5	9	19	2	35.14	8.06
①進捗度(成果)	0	7	9	15	4	3.46	0.94
②計画の妥当性	0	1	14	17	3	3.63	0.68
③学術的・社会的意義	0	0	11	14	10	3.97	0.77
④継続能力	0	2	13	17	3	3.60	0.73
⑤成果の普及	0	7	9	13	6	3.51	1.00

委員からのコメント(1. 生物資源業務に係る業績)

<p>評価できる点、推進すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイコプラズマ、ウイルスフリー細胞培養への取り組みは評価できる。 ・少数の研究者で多くのことを推進していることは評価しうる。 ・マイコプラズマの汚染はかつてより指摘されているが、こんな大変な数字が出てきたのは驚きであり、このような地味な仕事は重要である。 ・全体的には良くやっている。 ・高い培養技術を iPS、ES 細胞に持ち込まれたことは期待できる。 ・引き続き高クオリティの細胞バンクの維持に務めている。 ・細胞を用いた研究をサポートする上で、非常に意味がある。 ・ウイルスフリー株に対する取組は評価されると思います。 ・小規模な細胞バンクでありながら、年間 3000 アンプル以上の利用実績を誇っていることは高く評価できる。良質の細胞の分与に努力している点も立派である。 ・iPS 細胞については、当分社会的注目度が高く、研究ニーズも多いと思われる。その分、しっかりとした品質管理と安定供給が求められる。この課題に積極的に取り組んでいる点は評価できる。 <p>疑問点、改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集量、分譲数の目標数値、将来計画がよくわからなかった。 ・理研等と同様の事業について、国として一本化した方が効率的かつ発展的ですか？ ・あるいは、方向性をしぼっていくか？ ・業務を整理して多岐にわたりにすぎないよう、焦点を絞った方が良い。 ・今後の全体方向が不明。iPS、ES 方向なら何をめざすのか。 ・将来的な方向性(応用性を念頭にいた課題など)が少し見えにくい。研究協力体制が今後の課題。 ・グローバルに大きな細胞バンクがある中で、将来を見すえた業務を考えていただきたいと思います。 ・疑問点、改善点ではないが、新リーダーにおかれては、前リーダーが持っていた業務に対する強い責務と情熱を引き継いでもらいたいと期待している。 ・既存のヒト由来細胞 660 種に対して、医科歯科大から 1000 種、京大から 2000 種という細胞種を受入れ、バンクに収納していくとすると、もう少し基本戦略について具体的に検討する必要があるのではないか？
--

委員からのコメント(2. 生物資源研究に係る業績)

<p>評価できる点、推進すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品質管理向上に関する研究の方向性はよい。 ・iPS、ES の安定性、品質管理の研究を進める方向性は妥当である。 ・事業をやりながら研究の推進はきつい面があるかと推定しますが、がんばって下さい。 ・研究推進に必要な細胞の受託サービスは上手に進んでいる。その為の品質管理への取組みはできている。 ・パレドーション研究など、細胞バンクに関連する課題を中心に研究されている点は評価できると思います。 ・日本人由来の細胞を重点的に収集しようとする点、iPS 細胞の分譲に加えて、培養技術の提供を推進しようとしていることは評価できる。 <p>疑問点、改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPS、ES の安全性は他省や大学でも行っているの、連携が必要であろう。 ・数ある細胞について、どのあたりに焦点をあてて研究を展開するのか、品質管理としての面での研究を展開するのか、方向性が重要。 ・もう少し特色ある研究を推進すべきである。 ・理研との重複を避ける事は判るが、双方が補完してより良いものを作り出す仕組みが判らない。今後の課題。
--

平成21年度外部研究評価委員会評価結果

生物資源研究部 遺伝子資源研究室

評価項目・判定基準		委員の評点	平均	
1. 生物資源業務に係る業績	5 0 : 極めて優れている。 4 0 : 優れている。 3 0 : 概ね妥当である。 2 0 : 劣っている。 1 0 : 極めて劣っている。	35 20 25 25 20 20 30	25.00	
2. 生物資源研究に係る業績	①進捗度(成果) -中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、研究の進捗度は十分か。十分な成果を上げているか。	5 : 極めて良好である。 4 : 十分に良好である。 3 : 概ね良好である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	3 2 2 2 2 2 2	2.14
	②研究の学術的意義 -研究の学術的意義はどの程度あるか。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	3 3 3 3 3 2 3	2.86
	③研究の社会的意義 -研究の社会的意義はどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	4 3 3 3 3 3 3	3.14
	④研究目的達成の可能性 -研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か。	5 : 非常に高い。 4 : 高い。 3 : 平均的である。 2 : 低い。 1 : ほとんどない。	3 2 3 3 2 3 3	2.71
	⑤成果の普及 -学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5 : 積極的に取り組んでいる。 4 : 十分な取り組みが見られる。 3 : 概ね妥当である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	3 3 2 2 2 3 3	2.57
総合評価(100点満点) (【1. 生物資源業務に係る業績の評点】と 【(2. 生物資源研究に係る業績(①~⑤)の評点) × 2】の合計)			51.86	

生物資源部門 総合評価分布【平均：73.40 標準偏差：13.01】

研究室・センター数	総合評価(100点満点)				
	50.0~59.9点	60.0~69.9点	70.0~79.9点	80.0~89.9点	90.0~100点
	1	1	1	2	0

(参考)

生物資源部門 各評価項目の評点分布

研究評価項目	評点					平均	標準偏差
	10~19点 1点	20~29点 2点	30~39点 3点	40~49点 4点	50点 5点		
事業評価	0	5	9	19	2	35.14	8.06
①進捗度(成果)	0	7	9	15	4	3.46	0.94
②計画の妥当性	0	1	14	17	3	3.63	0.68
③学術的・社会的意義	0	0	11	14	10	3.97	0.77
④継続能力	0	2	13	17	3	3.60	0.73
⑤成果の普及	0	7	9	13	6	3.51	1.00

委員からのコメント(1. 生物資源業務に係る業績)

評価できる点、推進すべき点
 ・カニクイザル遺伝子データベースおよび cDNA クロームは世界最大と特徴があり、ヒト疾患モデル研究に有用なので評価できる。
 ・カニクイザル遺伝子データベースの作成の試みは評価できる。
 ・ヒト由来試料への展開は期待できる。
 ・ヒトのサンプルを用いた遺伝子解析を系統的に行っているため、解析に関しては評価できる。問題は、アウトカムである。
 ・ヒト関連遺伝子資源業務に関する限り、評価できる点は極めて少ない。分譲件数も少ない。
 ・少ない人数で頑張っているが、協力・客員研究員等を入れて、遺伝子資源バンクの有用性を示す必要があると思われる。

疑問点、改善すべき点
 ・せっかくの貴重な収集とデータベースなので、資源の有用性をあげる計画が必要であろう。
 ・20年度までは、方向性が見えてはいない。
 ・今後は難病関連遺伝子に取り組む?ということですか。
 ・難病研究班に参加して、遺伝子面からの対応が可能かどうか探る必要があるでしょう。
 ・ヒト疾患関連遺伝子の収集が18年度以降あまり進んでいない。分譲数も少ない。
 ・カニクイザル cDNA プロジェクトは分譲戦略がない。
 ・遺伝子解析はルーチンで出来るようになってきている昨今、もう一歩進んだ研究に展開して欲しい。
 ・遺伝子バンクとして、今後の目標を明確にし、焦点を絞るべきかと思えます。そうでないと事業そのものの意義もぼやけるかと思えます。
 ・業務や研究がヒトのものではなくカニクイザルに集中している。ヒトの疾病遺伝子に焦点を合わせるべきではないか(前年度も同様な指摘をした)。
 ・年間5000頭を越すサル類が毒性試験等に使われている。立派なカニクイザルの cDNA ライブラリやアレイを作ったのだから、トキシコゲノミクス等にも積極的に利用されるように、その有用性を示すべきである(共同研究でもいい)。

委員からのコメント(2. 生物資源研究に係る業績)

評価できる点、推進すべき点
 ・着眼点は良いと考える。
 ・長田直樹氏の研究活動は評価できる。

疑問点、改善すべき点
 ・研究としての目的、焦点が不明瞭。カニクイザルの cDNA クローム、データベースの収集、整理は大変有意義で、これを生かして比較研究のみでも目的を持てば大きな展開が可能であろう。
 ・もっとアグレッシブに研究と事業に取り組む必要があるでしょう!
 ・研究の目的と成果が分かりにくい。
 ・学術的な研究戦略が見えない。
 ・解析されたクロームが本当に有用なものであるのかどうかのところが不十分であり、この研究に対する理解度がどの程度あるのか不明。
 ・業務の圧力で研究にまで手が廻らないのではないのでしょうか。
 ・ヒトの疾病に関係する遺伝子に焦点をあわせた研究がなされるべき。カニクイザルのゲノム研究を行うのなら、霊長類医学研究センターで行った方が効率的だと思う。
 ・研究基盤の整備という点では、着実に進みつつあるが、応用面での有用性開発にもう少し力を入れるべきである。

平成21年度外部研究評価委員会評価結果

生物資源研究部 実験動物開発研究室

評価項目・判定基準		委員の評点	平均	
1. 生物資源業務に係る業績	5 0 : 極めて優れている。 4 0 : 優れている。 3 0 : 概ね妥当である。 2 0 : 劣っている。 1 0 : 極めて劣っている。	30 35 30 35 30 40 40	34.29	
2. 生物資源研究に係る業績	①進捗度(成果) -中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、研究の進捗度は十分か。十分な成果を上げているか。	5 : 極めて良好である。 4 : 十分に良好である。 3 : 概ね良好である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	3 3 2 4 3 4 4	3.29
	②研究の学術的意義 -研究の学術的意義はどの程度あるか。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	3 3 3 3 3 4 4	3.29
	③研究の社会的意義 -研究の社会的意義はどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	3 3 3 4 3 4 4	3.43
	④研究目的達成の可能性 -研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か。	5 : 非常に高い。 4 : 高い。 3 : 平均的である。 2 : 低い。 1 : ほとんどない。	3 3 3 3 3 4 4	3.29
	⑤成果の普及 -学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5 : 積極的に取り組んでいる。 4 : 十分な取り組みが見られる。 3 : 概ね妥当である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	3 2 2 2 2 4 4	2.71
総合評価(100点満点) (【1. 生物資源業務に係る業績の評点】と 【2. 生物資源研究に係る業績(①~⑤)の評点】×2)の合計)			66.29	

生物資源部門 総合評価分布(平均: 73.40 標準偏差: 13.01)

	総合評価(100点満点)			
	50.0~59.9点	60.0~69.9点	70.0~79.9点	80.0~89.9点
研究室・センター数	1	1	1	2

(参考)

生物資源部門 各評価項目の評点分布

	評点					平均	標準偏差
	10~19点 1点	20~29点 2点	30~39点 3点	40~49点 4点	50点 5点		
事業評価	0	5	9	19	2	35.14	8.06
研究評価項目							
①進捗度(成果)	0	7	9	15	4	3.46	0.94
②計画の妥当性	0	1	14	17	3	3.63	0.68
③学術的・社会的意義	0	0	11	14	10	3.97	0.77
④継続能力	0	2	13	17	3	3.60	0.73
⑤成果の普及	0	7	9	13	6	3.51	1.00

委員からのコメント(1. 生物資源業務に係る業績)

<p>評価できる点、推進すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験動物サポート業務は必須である。疾患モデルマウスに主力をおく方針はよい。 ・シリアンハムスターの卵巣移植・人工授精が出来たのは他にない特徴で評価できる。スナネズミ、マストミスも他にはやっていないので興味深い。 ・きわめて多くの地味な仕事が多いことは評価しうる。 ・疾患モデルに特化して事業を進めていることは評価できる。 ・各種の疾患に対応した自然発症マウスモデルを作製する事に成功している。 ・スローペースではあるが、確実に分譲件数が増加していることは評価できる。保護あずかりサービスなどで動物資源を利用しやすくする環境整備に努力している点もよい考えだと思う。
<p>疑問点、改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バンクとしては他に大型バンクが複数あるので、特色を出す方向性を明確にしていくとよいであろう。 ・改良、維持がほとんどですね、開発面では? ・サービス面での仕事が多くなっているが、本来の目的を忘れないように。 ・疾患モデル動物の収集努力が足りない。 ・作製した動物モデルが人との疾患にどの程度大きく反映されているかの評価が必要では? ・資源業務を絞り込むことが重要と思います。 ・研究費の増額のためにも、一般への啓蒙宣伝活動にも努力して欲しい。 ・疾患モデル動物の開発研究の事業が進んでいるのに対して、やや生物資源業務の方が弱い。開発した動物の供給を進める努力をする必要がある。

委員からのコメント(2. 生物資源研究に係る業績)

<p>評価できる点、推進すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患モデルマウスやハムスターに重きをおいた研究方針は良い。 ・自然発症を含めて動物モデル系作製に関しては、かなり進んでいるように思われる。 ・心筋症モデルマウスの開発などで、有望と思われるものが得られつつあると思う。 ・ユニークな疾患モデルマウス等が、共同研究により開発されつつある。今後の研究に利用されることが期待できるので、供給できるように取り決めを行ってほしい。
<p>疑問点、改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス面での仕事が多いが、オリジナルの研究面での充実をきちんとやっていく必要がある。 ・研究の目的を明確にしてほしい。 ・やるべきことは多々あることは分るが、勢力が分散してしまっているのではないかな? ・今後は、人の疾患とモデル動物のギャップ解析の結果を集めて頂ければ、有用であろう。 ・動物種を限定した研究によって、業務業績の向上につながるのではないのでしょうか。 ・疾患モデル動物としても、実験動物の種類についても、多数のものが研究対象になっているが、焦点がぼやけているのではないかな。目的が今ひとつ明確でない。

平成21年度外部研究評価委員会評価結果

薬用植物資源研究センター

評価項目・判定基準		委員の評点	平均	
1. 生物資源業務に係る業績	5 0 : 極めて優れている。	40	40	
	4 0 : 優れている。	40	40	
	3 0 : 概ね妥当である。	40	40	
	2 0 : 劣っている。	50	40	
	1 0 : 極めて劣っている。	40	40	
2. 生物資源研究に係る業績	①進捗度(成果) -中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、研究の進捗度は十分か。十分な成果を上げているか。	5 : 極めて良好である。 4 : 十分に良好である。 3 : 概ね良好である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	4 4 4 3 3 5 3.5	41.43
	②研究の学術的意義 -研究の学術的意義はどの程度あるか。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	4 4 4 3 4 4 4	3.79
	③研究の社会的意義 -研究の社会的意義はどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	5 5 5 4 4 5 4	3.86
	④研究目的達成の可能性 -研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か。	5 : 非常に高い。 4 : 高い。 3 : 平均的である。 2 : 低い。 1 : ほとんどない。	4 4 4 4 3 5 3.5	4.57
	⑤成果の普及 -学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5 : 積極的に取り組んでいる。 4 : 十分な取り組みが見られる。 3 : 概ね妥当である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	4 5 4 4 3 4 4	3.93
総合評価(100点満点) (【1. 生物資源業務に係る業績の評点】と 【2. 生物資源研究に係る業績(①~⑤)の評点】×2)の合計)			81.71	

生物資源部門 総合評価分布【平均：73.40 標準偏差：13.01】

研究室・センター数	総合評価(100点満点)				
	50.0~59.9点	60.0~69.9点	70.0~79.9点	80.0~89.9点	90.0~100点
1	1	1	1	2	0

(参考)

生物資源部門 各評価項目の評点分布

	評点					平均	標準偏差
	10~19点 1点	20~29点 2点	30~39点 3点	40~49点 4点	50点 5点		
事業評価	0	5	9	19	2	35.14	8.06
研究評価項目							
①進捗度(成果)	0	7	9	15	4	3.46	0.94
②計画の妥当性	0	1	14	17	3	3.63	0.68
③学術的・社会的意義	0	0	11	14	10	3.97	0.77
④継続能力	0	2	13	17	3	3.60	0.73
⑤成果の普及	0	7	9	13	6	3.51	1.00

委員からのコメント(1. 生物資源業務に係る業績)

<p>評価できる点、推進すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内唯一の薬用植物資源センターとして、収集、維持管理、種子保存、品質管理等、よく業績をあげている。 地味ではあるが、わが国唯一のセンターとして貴重な事業が着々とこなされている。 幅広い業務を良くこなしている。 公的機関としては、唯一のバンクであり、長期的な視点で進められており評価できる。 生理活性物質の遺伝子導入技術の応用性は高いと思われる。化学合成では、困難な化合物を合成する手段の一つである。 資源の業務には十分に努力されていると思います。地味ではありますが、極めて重要な業務なので、継続して進めて頂きたいと思います。 薬用植物に関するレファレンスセンターとして機能を果たしている。また、多くの種子等を分与し、この面の期待に応えている。 収集・供給が順調に行われている。 <p>疑問点、改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標はどのくらいの規模なのでしょうか？ 今後の方向として、このようなわが国の植物から薬品開発をめざすのか、世界のいわゆる伝統医薬として用いられている植物にも積極的に対応してみえる領域を展開しようとしているのですか？ 厚生省の機関として、創薬の観点から業務を精査して整理した方が良いでしょう。 事例がまだまだ少ないので、どの程度有用な手段なのかを示して行く必要がある。 薬用植物資源研究センターの活動は広く知られているとは言いがたい。業務・研究にかかわる広報や宣伝に力を入れて欲しい。
--

委員からのコメント(2. 生物資源研究に係る業績)

<p>評価できる点、推進すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> 遺伝子導入技術を向上させた研究は評価できる。 成果発表、公表にもよく努めている。 海外での医薬草を用いての研究成果は高く評価しうる。 天然資源の有効利用に繋がる。方法論は面白いが、実績の積み重ねが今後の課題であろう。 薬用植物の生物学的基盤はきわめて脆弱であるので、時流に流されずに栽培研究を続けて頂きたい。 ケシ類の研究は、センターでしか出来ないものであり、責任を持って進めて頂きたい。 特許を取ったことは評価できる。リーシュマニア薬で開発研究に進展があったことも喜ばしい。更なる進展を期待している。 <p>疑問点、改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患ターゲット別の創薬を意識して研究を進めてほしい。 昨年からの少し手がつけられはじめていますが、医薬品製造用のGMOに関する安全性評価研究にも関心を持って欲しい。
--

平成21年度外部研究評価委員会評価結果

霊長類医学研究センター

評価項目・判定基準		委員の評点	平均	
1. 生物資源業務に係る業績	5 0 : 極めて優れている。 4 0 : 優れている。 3 0 : 概ね妥当である。 2 0 : 劣っている。 1 0 : 極めて劣っている。	45 40 45 45 45 50 40	44.29	
2. 生物資源研究に係る業績	①進捗度(成果) -中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、研究の進捗度は十分か。十分な成果を上げているか。	5 : 極めて良好である。 4 : 十分に良好である。 3 : 概ね良好である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	4 4 5 5 4 5 4	4.43
	②研究の学術的意義 -研究の学術的意義はどの程度あるか。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	4 5 5 4 4 5 4	4.43
	③研究の社会的意義 -研究の社会的意義はどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	5 5 5 4 5 5 4	4.71
	④研究目的達成の可能性 -研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か。	5 : 非常に高い。 4 : 高い。 3 : 平均的である。 2 : 低い。 1 : ほとんどない。	4 4 4 4 4 5 4	4.14
	⑤成果の普及 -学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5 : 積極的に取り組んでいる。 4 : 十分な取り組みが見られる。 3 : 概ね妥当である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	4 5 5 5 4 5 4	4.57
総合評価(100点満点) (【1. 生物資源業務に係る業績の評点】と 【2. 生物資源研究に係る業績(①~⑤)の評点】×2)の合計)			88.86	

生物資源部門 総合評価分布【平均：73.40 標準偏差：13.01】

研究室・センター数	総合評価(100点満点)				
	50.0~59.9点	60.0~69.9点	70.0~79.9点	80.0~89.9点	90.0~100点
	1	1	1	2	0

(参考)

生物資源部門 各評価項目の評点分布

研究評価項目	評点					平均	標準偏差
	10~19点 1点	20~29点 2点	30~39点 3点	40~49点 4点	50点 5点		
事業評価	0	5	9	19	2	35.14	8.06
①進捗度(成果)	0	7	9	15	4	3.46	0.94
②計画の妥当性	0	1	14	17	3	3.63	0.68
③学術的・社会的意義	0	0	11	14	10	3.97	0.77
④継続能力	0	2	13	17	3	3.60	0.73
⑤成果の普及	0	7	9	13	6	3.51	1.00

委員からのコメント(1. 生物資源業務に係る業績)

<p>評価できる点、推進すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内唯一の霊長類産生、管理、研究センターとしてよく機能している。 ・多いとはとてもいえない予算と、人的にも業務と研究を兼ねるといふ厳しい条件の中での努力について高く評価したい。 ・全般的に良くやっている。 ・重要なリソース事業である、すぐれた先端研究がなされている。 ・新しいモデル系を提案していて、将来への可能性が期待できる。 ・カニクイザルの資源業務は、医科学研究に十分に寄与していると思います。 ・カニクイザルが入り手し難い現在、系統を維持した各種カニクイザルコロニーを保持し、医学研究に提供している点は、高く評価できる。 ・繁殖・供給とも順調に行われている。 ・高品質サルコロニー作出計画も順調のようである(SRV/Dフリー・コロニー)。 <p>疑問点、改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化に対応する必要がある。 ・将来わが国の霊長類センターの研究と業務をどうしていくかは、丁度30年を経たことでもあり、施設、設備、人材等を考慮した上で、問題点を整理し、行政はその提案に対して正面から対応する必要があるでしょう。 ・霊長類の特色を生かした研究をすることを常に心がけてほしい。 ・実際の人での病態との相関があるのか、その解析が課題ではないか。 ・霊長類資源の飼育・繁殖等に関するデータベースの情報は公開される予定なのですか？どの程度まで整備されたのか？

委員からのコメント(2. 生物資源研究に係る業績)

<p>評価できる点、推進すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清浄な飼育環境の中で、拡張型心筋症や孤発性ADなどの疾患モデルサルが確立しており、興味深い研究が推進されている点は評価できる。 ・基本的研究者の構成がたった7人という中で着々と成果をつんでいることは高く評価すると共に、より多くの秀れた人材が定着して秀れた研究を展開していくことを期待する。 ・このセンターにしかないモデルがいくつかあるが、これを大切に良い研究を出して下さい。 ・すばらしい研究を推進しているが、やや総花的な感がある。 ・最先端の研究であり、今後の展開が期待できる。 ・時代に即応した開発研究がなされていると思います。 ・研究者の数も他のグループに比べて多いが、研究レベルも高い。 <p>疑問点、改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備はすでに30年を経っており、多くの部分が改修、交代、引退期に入っており、今後研究面でも差し支える点が多く出てくると思われる。わが国唯一のセンターが世界の重要な施設のひとつとしてカウントされるように、人材面、施設面でも充実していくことが基本であり、秀れた研究はここから出て行くことになるでしょう。がんばって下さい。 ・他部門との共同研究が今後の課題ではないか。 ・感染研との共同研究で、C型肝炎ワクチンの開発研究が行われたが、今後も継続されることを期待している。業務にかかわる研究も軽視しないで欲しい。 ・施設の改修等の予算を要求する必要がある。
